

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算第22号）
平成27年6月30日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



大島中区の三校は小中一貫教育の一環として「ゴミ拾いウォーク」を行いました。この活動は、小、中学生が縦割り班を編成して地域の清掃活動を行うものです。須頃小、大島小の周辺で、中学生がリーダーとなり、みんなで協力して、燃えるゴミ、燃えないゴミに分別しながらゴミを拾いました。大島中区では四年前から毎年この時期に実施しており、今年が五回目。三校の全校児童・生徒と保護者、地域の人が合わせて三百人近くが参加し、一時間ほどの活動で大きな袋が満杯になりました。

ゴミ拾いウォーク（5月29日）

「さんじょう学びのマルシェ」も応援しています！

教育センター 統括指導主事 平野 政幸

一昨年度の学校教育法施行規則の一部改正により土曜日等で授業を実施することが可能となり、「土曜授業」、「土曜の課外授業」、「土曜学習」という切り分けを文部科学省から提示されました。

「土曜学習」は教育委員会など学校以外の者が主体となって希望者に対して学習等の機会の提供するもので、三条市が実施している「さんじょう学びのマルシェ」はこれに該当します。三条市以外では、大分県豊後高田市教育委員会が実施している「学びの21世紀塾」が有名です。

「さんじょう学びのマルシェ」は、昨年度から県が実施している「土曜学習モデル事業」の指定を受けています。この事業は、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日の過ごし方ができるように、市町村における地域の人材や企業等を活用した「土曜学習」の体制づくりを支援することを目的とした事業です。今年度の指定市町村は6市で、昨年度からの三条市・南魚沼市・村上市に加え、新発田市・見附市・十日町市が実施しています。

また、新潟県は地域住民や保護者、学校関係者等が連携・協力し、地域で子どもたちの教育活動を支援する取組を推進して、地域の教育力の向上を図る「新潟県学校・家庭・地域の連携促進事業」を実施しており、「放課後子供教室」がこれに該当します。

さらに、国は放課後や土曜日の良好な教育環境づくりに向けて、文部科学省事業の「放課後子供教室」と厚生労働省事業の「放課後児童クラブ」とを連携した総合的な放課後対策「放課後子ども総合プラン」を推進しています。

今、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わっています。この変化をチャンスと捉え、「学習支援」や「放課後等支援」、「家庭教育支援」等の様々な『教育支援活動』に、地域・家庭・学校が連携・協力して、未来を担う子どもたちを育む体制づくりに努めていきたいと思います。

「保護者の不安な気持ちへの対応～子どもの発達と保護者支援～」研修会

5月28日、新潟大学教育学部有川幸准教授を講師にお迎えし、標記研修会を開催しました。市内外の教職員40名が学びました。

困り感のある児童生徒の支援には保護者との連携が不可欠です。“どのようにして保護者との良好な関係を作っていくか！”有川先生は、保護者との協働の重要性や良好な関係作りのスキルとしての「交渉術」の大切さを、いくつもの具体例を交えて説明されました。その中から、特に印象に残ったものを紹介します。



- ・説明責任を果たすためには、知らなければならない。そして、説明できなければならない。
- ・はじめの一言がその後の話し合いにもたらす影響は非常に大きい。保護者に会った時に何と切り出すか。十分検討してから話し合いに臨むことが重要である。
- ・保護者が何を望んでいるのか正確に把握しておくことが大切である。十分な情報収集・分析を！
- ・人間には、変えるに換えられない、止めるに止められない心理がある。(コンコルド効果)
- ・人間の意思決定は、質問や問題の提示のされ方によって変わるものである。
- ・「マイナス」を「プラス」に変える発想の大転換を！

【受講者の声】 ※肯定的評価（参加してよかった、どちらかと言えば参加してよかった）：100%
・保護者からの相談をもっと肯定的に受け止めていきたい。学校に対してのクレームと受け止めず、問題がどこにあるのかを見極め、保護者のよき相談相手になりたいと思った。
・保護者と教師の両方が得になる話し合いというスタンスの大切さ、そのために保護者が期待していることを探ること、ポジティブな考え方をすることなど保護者との対応の仕方がよく分かりました。
・保護者対応において、初めの一言の大切さや教育の目的の説明、両者が100%得する交渉術など、意識の薄かった内容について学ぶことができました。

第1回教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習

6月10日、11日に標記研修会を開催しました。最初に作業シートを使っての個人作業を二つ。

- ① 中学校区の教科カリキュラムから1単元を選び、当該学級の実態から「既習事項の確認」「発展的な内容」「系統的な学習内容の積み上げ」「9年間の学びにおける本単元の価値」等の見直し。
- ② ①を踏まえて本単元で大事だと思う指導内容や指導方法、自分が工夫したい事の記入。

その後、教科ごとのグループ演習。各教科内で作業シートを紹介し合い、意見交換を行いました。最後に担当指導主事からの指導助言、第2回・演習に向けての説明、予告がありました。国語4名、社会3名等7グループとも少人数でしたが、活発な意見交換が行われ、理解が深まりました。



【受講者の声】 ※肯定的評価（参加してよかった）：100%
・今回の講座のようにお互いに話をしながら指導案を作成できるとありがたいです。次回もよろしく願いいたします。
・グループ内に小学校の低・中・高、中学校の担当者がいたので、9年間のつながりを考えるうえで非常に参考になった。小池先生による小中一貫教育の説明も分かりやすく、三条市に初めて勤務した私にとって、とても有意義な研修でした。
・小学校の先生と話すことで、小学校でどのような社会科の授業が実践されているのか理解できる部分があり、良かったです。内容がつながっているのでも、小学校と連携を強めることでより発展的な学習を展開できるようになると感じました。
・小学校の学習内容が中学校でどのように出てくるのか、中学校の生徒の反応や得意・不得意など、とても参考になりました。
・短時間でしたが、じっくり教材や指導書を読むことができ、また、皆さんからいろいろ教えていただいて参考になりました。

教室の息づかい ー生徒指導・学校運営訪問からー

小中一貫教育推進課指導主事 本多 真人

教室前の廊下にさしかかったとき、廊下から教室に入ったとき、教室の息づかいを感じます。

昨年度、そして今年度、たくさんの教室を訪問させていただきました。子どもたちと担任・教科担当の先生方との息づかいがひとつになっている教室がたくさんありました。それは深呼吸のような、ゆっくりと大きい、静かでやさしい息づかいです。この息づかいを感じられる教室には共通するものがあります。

- 子どもたちの目が一所に集中し、学びに勢いがあるー子どもの学びたいことと教師の学ばせたいことが一致した授業が行われている。
- 子どもが安心して自分を表出し、教師がそれをしなやかに受け止めているー「自分の居場所はここ」と子どもが実感している。安心感を抱いている。
- 子どもも教師も他を思いやり、自他を大切にしているー人権感覚に満ちている。

これらは、毎日子どもと教師とのかかわり合いの中で醸成されたもので、決して1日にして成り立つものではありません。毎日毎日の授業を通して整っていくものです。授業は、学校生活の中で、子どもと教師が最も長く時間を共有する活動です。学習内容を身につけるのはもちろんですが、子どもは授業の中で、人としての在り方や振る舞い方、生きることの喜びや難しさ、助け合い支え合うことの嬉しさや大切さ、一生懸命やり続けること・やり抜くことの尊さ等、たくさんのことを学びます。子どもは授業の中で育つのです。授業づくりや授業に臨む私たち教師の姿勢が、教室の息づかいに特徴をつけるのでしょう。たくさん教室訪問から授業の大切さを改めて感得しました。

1学期も終わりが見え、夏も近づいてきました。今だからできること、今しかできないことがたくさんあると思います。今年度の一つ目の節目に向け、授業を中核に据えながら、子どもにとって掛け替えのない学級を、子どもと一緒に作り上げていかれることを期待しております。

【平成27年度「生徒指導・学校運営訪問」一覧表】

期日	訪問校	訪問者	期日	訪問校	訪問者
4.30 (木)	大浦小	大西聡子 長谷川洋志	7.6 (月)	三条小	渡邊芳久 森山俊次
5.14 (木)	笹岡小	本多真人 長谷川洋志	7.7 (火)	須頃小	渡邊芳久 小川弘実
5.14 (木)	本成寺中	渡邊芳久 森山俊次	7.7 (火)	森町小	大西聡子 長谷川洋志
6.2 (火)	一ノ木戸小	本多真人 山田正夫	7.8 (水)	大崎小	本多真人 丸山 修
6.3 (水)	保内小	大西聡子 森山俊次	7.10 (金)	裏館小	小田貴樹 小川弘実
6.4 (木)	大面小	小田貴樹 森山俊次	7.14 (火)	上林小	渡邊芳久 小川弘実
6.12 (金)	大崎中	小田貴樹	7.15 (水)	大島中	小田貴樹 丸山 修
6.12 (金)	栄中	渡邊芳久 小川弘実	9.10 (木)	第一中	小田貴樹 山田正夫
6.16 (火)	第四中	本多真人 丸山 修	9.17 (木)	嵐南小	大西聡子 長谷川洋志
6.18 (木)	長沢小	渡邊芳久 山田正夫	9.18 (金)	月岡小	渡邊芳久 丸山 修
6.19 (金)	栄北小	大西聡子 長谷川洋志	9.28 (月)	下田中	本多真人 長谷川洋志
6.23 (火)	井栗小	渡邊芳久 森山俊次	9.29 (火)	旭小	大西聡子 山田正夫
6.24 (水)	飯田小	本多真人 森山俊次	11.10 (火)	第二中	大西聡子 丸山 修
6.30 (火)	栄中央小	本多真人 小川弘実	11.17 (火)	第三中	小田貴樹 小川弘実
7.3 (金)	西鱈田小	本多真人 丸山 修	11.24 (火)	大島小	小田貴樹 山田正夫

【深めよう絆スクール集会】

中学校区	期日	会場	中学校区	期日	会場
第一中	11.12 (木)	第一中	大崎中	11.27 (金)	大崎中
第二中	9.30 (水)	一ノ木戸小	大島中	12.2 (水)	大島中
第三中	10.9 (金)	第三中	栄中	10.9 (金)	栄北小
第四中	11.20 (金)	第四中	下田中	10.27 (火)	下田中
本成寺中	11.11 (水)	本成寺中			

※内容によって「いじめ見逃しゼロスクール集会」と呼ぶなど、集会の名称が異なります。

第11回 小中一貫教育推進委員会

標記の会が6月1日に栄庁舎で開催されました。教職員の人事異動、自治会長の交代等に伴い、7名の委員が交代しました。

3月末に定年退職した遠藤副委員長（前第一中校長）の後任に、志賀徹也一ノ木戸小校長が選出されました。以下、主なもの。

1 第2回小中一貫教育全国サミット三条実行委員会の報告と協議

(1)「要項」の内容 ※1,500部作成

①開催要項（テーマ、主催・後援、日程、会場案内等）

②開催地三条の取組紹介

ア. 文部科学省研究委託のまとめ（市教委が執筆）

イ. 各中学校区の実践のまとめ（4P×9中学校区）

③正会員の取組紹介⇒現在、10自治体からの応募

④資料編

(2)「指導案集」の内容 ※1,500部作成

・内容は以下の4点とし、1冊にまとめる。

①公開授業一覧 ②校舎の案内図 ③授業の特色 ④指導案

・指導案の形式は、4つの中学校区に一任する。

(3)「プレゼンテーションの実実施計画（基本方針）」 ※時間は30分を予定。

①以下の2本柱を別物とせず、1つのストーリーの中に盛り込む。

柱1：文部科学省委託研究の取組と成果 柱2：三条市の小中一貫教育の取組と成果

②「何をしたか」というレベルに留まらず、「どんな効果や成果があったか」を述べきる。

③参会者を惹きつける方法を工夫する。（複数発表者、VTR使用、時間等）

2 小中一貫教育制度移行検討部会部員の承認

3 市共通の小中一貫教育に係る点検・評価～平成27年度年間スケジュール～について



三条市小中学校教員防災教育研修会 ～下田中学校、6月12日～

【公開授業】

1、2年生の6学級で「新潟県防災教育プログラム」に基づいて作成した指導案に沿った授業が行われました。まず、平成23年7月新潟・福島豪雨時、避難勧告が発表されたにも関わらず避難しなかった三条市民が多かったことを確認しました。その後、洪水時の適切な避難方法について考えました。1年生は「洪水ハザードマップ」で洪水時の危険性と避難方法を考えました。2年生は避難行動を阻害する人間の心理特性について学び、どうしたらみんなが避難することができるか考えました。教師の問いに正対し、積極的に自分の考えを発表する生徒の姿が印象的でした。



【講演会】 演題:防災教育の可能性～生きる主体性を育み、文化を築く防災教育～

講師は昨年度に続き、群馬大学大学院理工学府の片田敏孝教授。“釜石の奇跡”で知られる、防災教育の第一人者です。釜石市や田辺市等での防災教育の実践や実例を、映像を交えて熱く語られました。講演内容の主なものを紹介します。

○知識を与える防災教育でよいのか、はなはだ疑問である。

○正解のないことを知らせ、その時の状況に応じ、自分のもって

いる知識・経験を総動員して行動する子どもを育てるのが“防災教育”の特長である。

○防災教育は単なる「逃げろ！逃げろ！」の教育ではない。防災教育をしっかりとやっている学校は、いじめが少なく、不登校の子どもに優しく、学力が高い。いいこと尽くめである。

○人を動かすのは“共感”。共感を生むコミュニケーションを地域でどう作るかが大切である。